

「長期金利が語ること」

拝復

二週間のご無沙汰でした。あれほど騒がれた「新型インフルエンザ」もどうやら幕引きのようです。風評被害から少なからず影響を受けた「観光産業」を除けば混乱はミニマムであったと感じます。今回は非



常に貴重な経験をしたのです。来るべき「**H5N1型**」(鳥インフルエンザ)に向けてシミュレーションをすることが出来ました。一つは、**水際防疫のある程度の効果を検証できたこと**。大阪、兵庫を除けば患者は一桁。「水際防疫」は絶対ではないが、**本格的なアウトブレイクを前に準備期間を持てることが分かった**。ただし、一度入国を許してしまうとその後の伝染には対策の決定打がないことも分かりました。

ひたすら、移動を控え、「タミフル」の力を借り、闘うしかないのです。運がよければ生き延びる。得られたことのひとつとして日常生活上の習慣付けがあると思います。日頃の手洗い、うがい、マスクの準備等の、心の準備もある程度できたと思います。もう一つは新たな技術革新を促しました。**検査キット**

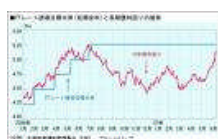


←この発明はすごい、新型ウイルスを素早く増幅させる技術です。

の判別に要する時間を短縮する技術にめどがたちました。これまでのキットは新型かどうか

を判定するのに「**6時間**」かかっていました。新しいキットは「**30分**」これは大きい。空港検疫などがスムーズになる。患者と疑わしい人を1時間程度待つてもらえれば、入国をさせていいのかどうか判断できます。学校や職場でも同様、発見したらとにかく隔離することです。政府の対応が批判される一面もありましたが、問題点が見つかったことが大きいのです。**問題が分かれば、答えは見える。**

今回はまた経済ネタか？と言われそうですが、大きな節目が見えてきました。この二週間ほど日米で長



期金利が高くなっています。

「日米の長期金利が急上昇している。景気悪化がやや和らぐ一方で、財政出動に伴う国債の大量発行が意識されてきたためだ。長期金利は、企業の借入や住宅ローンの金利にも影響する。景気回復を伴わない「悪い金利上昇」になれば、設備投資や住宅建設の足を引っ張りかねない。(中略)国債の流通価格と利回りは価格上昇なら金利低下、価格下落なら金利上昇と言う関係にある。景気後退局面では通常、国債が買われ、金利が下がる。事実、米国では昨年末に 2.06%と異例の低さになった。ところが、3 月頃から株価上昇に合わせて債権が売られ始めた。さらにここ数週間は「米国債の大量発行を控え、需給悪化を心配した、悪い金利上昇が続いた」。(09 年 05 月 29 日付 朝日新聞経済面より) **現在は「3.74%」** です。

やっと新聞が書きはじめたと感じます。今回の「金融危機」は各国政府の「何でもあり」政策や財政投融资のおかげで「金融機関」が一息つくことが出来ました。過剰な流動性と 3 月からの株価の上昇がその



背景にあります。**株価はおよそ 1000 兆円 (30%) が回復した**。

ヘッジ・ファンドは首の皮一枚で何とかつながっている。しかし、各国の政策と言っても、まだ実際に資金が投下されたわけではありません (緊急融資は別)。全世界でおよそ 500 兆円と言うかつてない規模の経済対策が行われるのはこれからである。今のところはアナウンス効果で「金融危機」は最大の難関を超えたように見えているだけです。日本でも 15 兆円の経済対策が打たれることになっているが、事実は一昨日、やっと国会を通った。すべてはこれからです。

各国政府が今取り組まなければならない課題の中でもっとも大きな影響力を持つのは「**資金調達**」



です。**財政投融资の財源は原則すべて「新規発行の国債」** **でまかなわれます。** 500 兆円と言えば世界中のすべての国の GDP とほぼ等しい。どれだけとんでもない金額なのかを理解していただきやすいと思います。国債の発行は簡単です、「国債」と書かれたペーパーを印刷するだけです。問題は「**誰が買ってくれるか**」です。

これまでアメリカは各国から借金をして「非常にレベルの高い消費社会」を支えてきました。**主な買い手は日本、中国、中東各国。** 新しい米国債は誰が引き受け手になるのか？日本は今回の「金融危機」でもっとも大きな被害を被っています。米国と中国に依存した「輸出」経済であったからです。ですから日本はアウト。**米国債どころか自国の国債も危うい。** 中東各国はやや持ち直しているものの一時 150 ドルを超



えた原油価格が 65 ドルではまだ余裕はない。**世界中の地価の下落のトップは「ドバイ」**です。

残る希望は「中国」だけになります。中国はこの危機の中にあっても相変わらず右肩あがりの成長を続けています。もちろんかなり減速はしていますが。中国当局は盛んに「危険シグナル」を米国に送り続けています。これ以上ドル国債を増やしても、国益にならないことを知っているからです。米国の首脳がやたらに中国詣でをしているのは、「ドル国債の継続的な購入」をお願いするためです。つくづく、時代の変化を感じます。



誰も買わない国債を引き受けるのは「FRB」しかいません。これは究極の禁じ手で、この状況が明らかになれば、長期金利は再び上昇し、過去に購入した米国債の価値は急落します。簡単に言えば長期金利が1%上がるだけで既発の国債は10%下落します。誰もそんな事態を受け入れるのは嫌ですから、民間企業の多くは国債を売りに出します。急激な「ドル安」が進行します。1ドル70円、60円という数字が出てもおかしいとは思いません。それだけアメリカ経済は相変わらず、不安定なのです。一番損を被るのは日本です。保有する600兆円の米ドル債の価値が下がります。でも日本は売らない。米国と一蓮托生の覚悟をしているように見えます。ポチにもポチの一念か(T_T)。(実は既に2008年中のドル安のせいで100兆円の損を被っています)



ドル安が進むと日本はまた甚大な被害が襲います(T_T)。ほぼすべての輸出企業は赤字になり、もともと赤字の企業はその赤字幅を広げます。再び、株式市場は下落に向かいます。企業業績は低迷し、リストラと言う名の人員削減かもしくは大幅な賃金下落を求めます。多くの被雇用者は賃金下落を引き受けざるを得ないでしょう。さらに消費が落ち込みます。世界最強の通貨となるのに何と皮肉なことでしょう。

いつも思うんですが、不思議なマークですわね→



一方、「FRB」によって大量の「ドル紙幣」が印刷され、流通します。この事態の帰着は明らかです。インフレーションです。震源地はアメリカ。賃金の上昇を伴わないインフレ、スタグフレーションです。何か難しいことを書いているようですが、とても簡単です。モノの価値が変わらない中で通貨の発行量が増えれば、インフレになることは、どの初心者向けの経済学の教科書に必ず書かれています。とてもシンプルなのです。単純であるだけに、事態を避けることが難しい。ただ、いつやってくるかと言うタイミングが難しい。

文字通りなんでもあり、感覚が変です→



理由があります。今現在ほとんどの欧米の金融機関は、政府によって認められた「**粉飾決算**」を行っています。事実上、欧米の金融機関はその多くが破綻しています。その金融機関が現在保有している、証券化商品を何とか「FRB」に売り、増えたお金を企業に貸し出すタイミングだと思います。1年後か、2年後か、タイミングを計るのは難しいのですが、「確定された未来」であると感じます。それまでの間は貸金もモノの値段も下がり続ける「(短い)デフレ」でしょう。

そんな状況が見え始めているから、長期金利が上がり始めています。**長期金利は短期金利に比べて中央銀行がコントロールできない**からです。国策に対してマーケットの疑惑の念を表すのが長期金利です。**だから長期金利に注目する必要があります**。

また可能性としてはそれほど高いとは思えませんが、米国が何らかの形で徳政令をしく可能性がないとは言えません。**新ドルの発行**です。例えばこれまでの2ドルを新1ドルと交換するのです。当たり前ですが負債は半減します。少し前までであればそんな荒唐無稽な話、として笑うことが出来たのですが、今は

ご存知のとおり GOLDは値上がりを続けています→



笑うことが出来ません。本当にやるかもしれないからです。かつてドルはゴールドの兌換紙幣でした。1971年突然、ドルとゴールドの交換停止を発表し、即日に行いました。こう言う決断力においてアメリカは優れている国です。人の顔をうかがったりしません。

今回は普段の生活の中ではあまり耳にしない、長期金利と言う一つの指標を使ってシミュレーションしてみました。難しくはないのです。**長期金利を見ればマーケットが政府の施策の結果をどのように感じているのかがわかります**。

私も自分の生活の防衛のためにポジションを変えました。ま、気休めですけど^^;

「100年に一度」と言う言葉、流行語大賞獲得が確実だと思いますが、誰が言い出したかは案外忘れられ



ています。アラン・グリーンズパンさんです。自分の失政を棚に上げた発言です(T_T)。

さて次回は6月中旬。ボーナスも厳しそうですね。ではでは～(^ ^) /～～。

株式会社アール・リサーチ 〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3 F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

<http://r-research.co.jp/> ブログ、ほぼ、毎日更新しています→<http://rresearch.blog103.fc2.com/>